

# 検討背景・目的について

---

高齢者の生活実態に対応した住宅防火対策のあり方に関する検討部会(第1回)

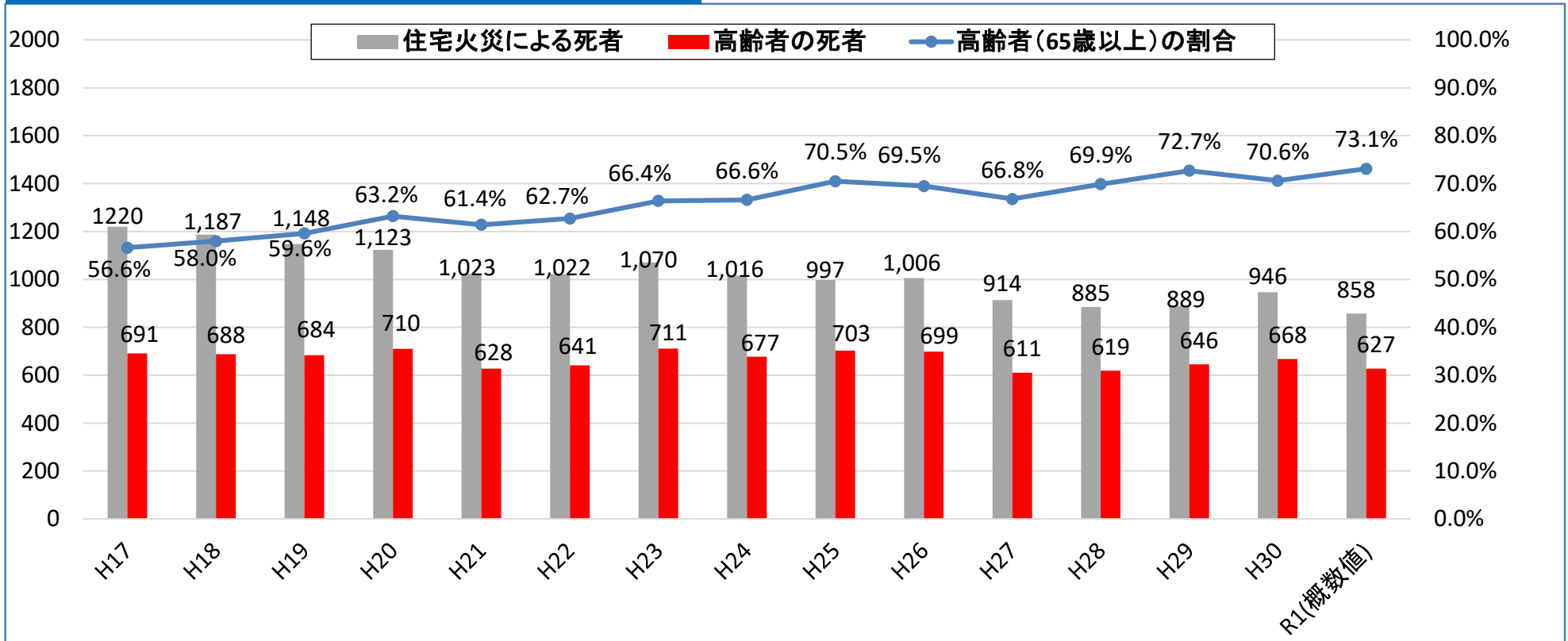
## 背景・目的

近年の住宅火災による年齢階層別死者(放火自殺者等を除く。)を見ると、**65歳以上の高齢者(以下「高齢者」という。)**の占める割合が約7割と高水準で推移している状況であり、今後、さらなる高齢化の進展が見込まれる中で、住宅火災による高齢者の死者数の割合は増加していくことが予想される。

このことから、これまで行われてきた住宅防火対策に加え、**高齢者の生活実態に対応した防火対策**を講じるため、高齢者の生活実態等を踏まえた効果的な防火対策について検討を行い、住宅火災による高齢者の死者数の低減を図ることを目的とする。

## 住宅火災による死者数の推移と高齢者の占める割合

※放火自殺者等を除く



## 検討項目

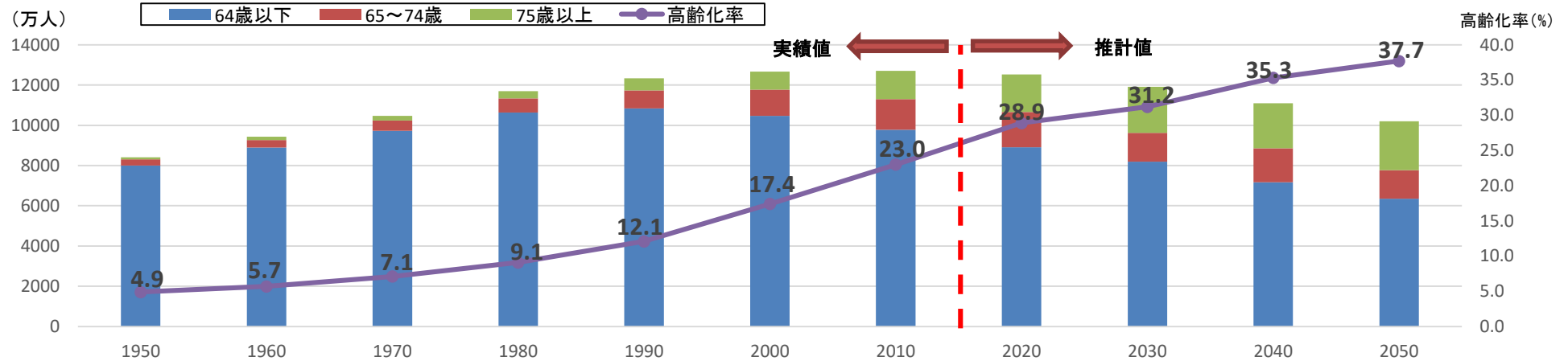
- (1) 高齢者の死者が発生した住宅火災の実態について
- (2) 高齢者の生活実態調査について
- (3) 高齢者の生活実態等を踏まえた防火対策について

# 高齢化の推計と高齢者の死者数の割合

高齢者死者数の割合と高齢化率は**相関関係**にあり、今後、さらなる高齢化の進展と共に、**高齢者死者数の割合は増加していくものと推測**される。

## 高齢化の推移と将来推計

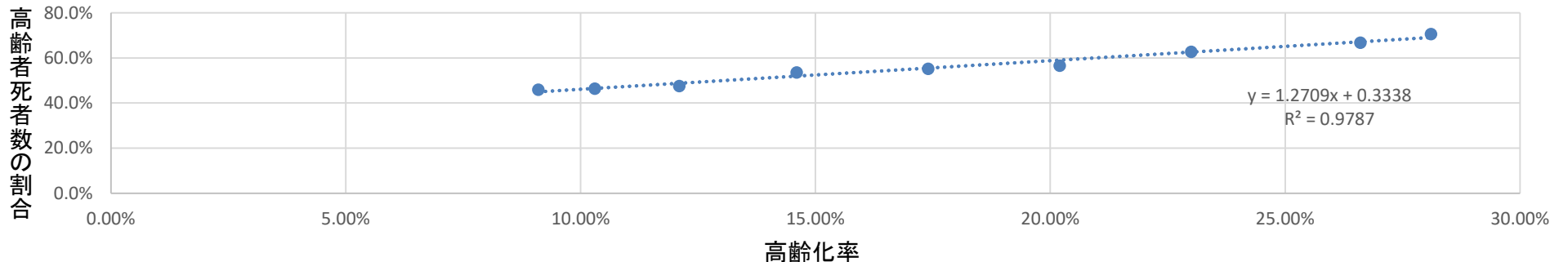
(令和元年版高齢化社会白書より抜粋)



※ 将来人口推計: 2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果  
 高齢化率: 65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合

## 高齢者死者数の割合と高齢化率

	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2018
高齢化率	9.10%	10.30%	12.10%	14.60%	17.40%	20.20%	23.00%	26.60%	28.10%
65歳以上の高齢者死者数の割合	46.0%	46.4%	47.6%	53.6%	55.2%	56.6%	62.7%	66.8%	70.6%



# 人口10万人あたりの死者数

年齢区分別の人口に対し、65歳以上の高齢者では人口10万人あたりの死者数が他の年齢層に比べ多い傾向にあり、特に**81歳以上では3.14人**で最も多い。

## 年齢区分別人口と人口10万人あたりの死者数

※平成30年(2018年)中の火災報告データから抽出・集計

